

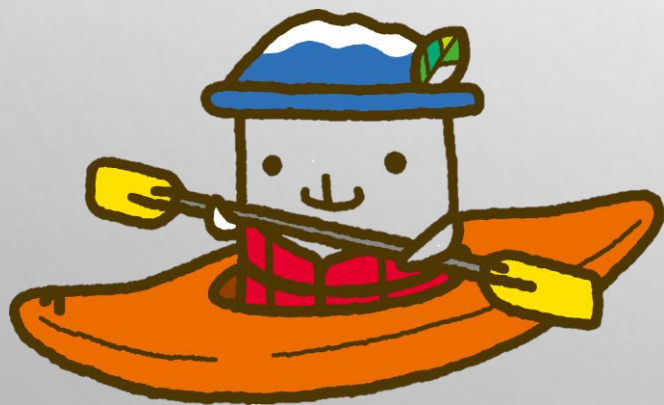


西川町 事例発表

「カヌーの町 にしかわ」の取組み

山形県スポーツコミッション研修会事例発表資料

令和4年1月20日(木)



西川町（月山湖カヌースプリント競技場） 1992年べにばな国体カヌー競技を開催

- 開催に向けて約10年前から準備を開始 1983年に月山湖での開催を決定 500Mコースの整備
- 西川町内の中学校（東部・西部）にカヌースキークラブを発足（1987年）
- クラブ発足3年目で全国中学生大会の9種目中7種目を全国制覇
- 1990年とびうめ国体（福岡）で成年女子優勝
- 1991年石川国体で少年カヤックペアでアベック優勝 500Mコースの竣工
- 1992年べにばな国体では天皇杯・皇后杯ともに獲得 7種目優勝
- 以降、優勝や入賞者を毎年輩出 ※東京2020五輪日本チーム監督木村文浩先生の存在



べにばな国体以降の取組み その1

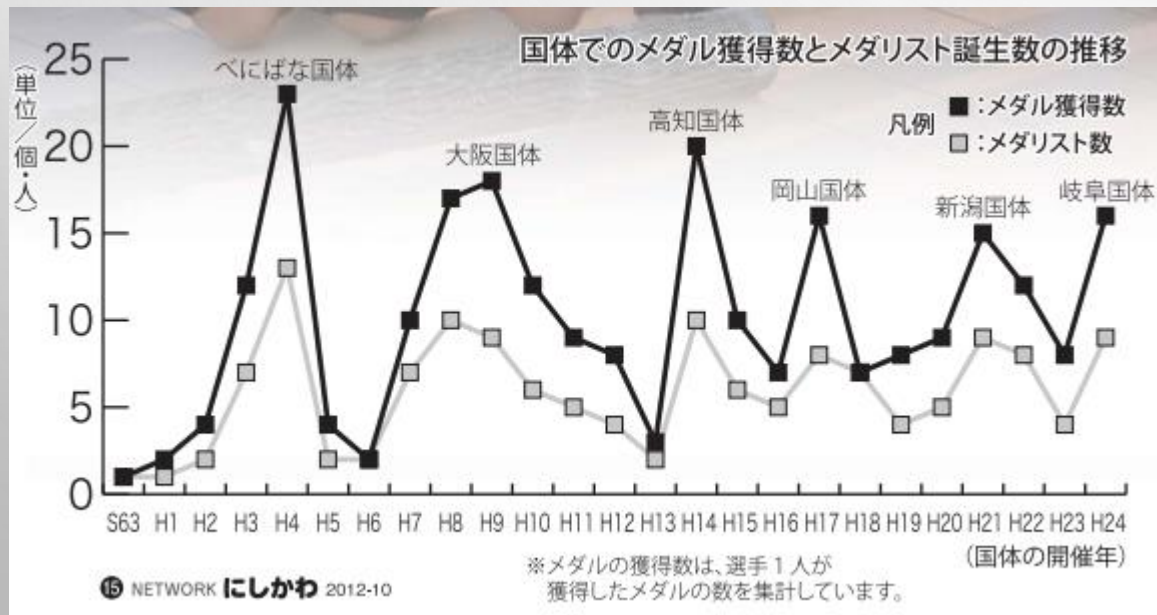
カヌーの普及振興のために(競技のみならず)



- カヌーを町のスポーツとして位置付け
- 小学校授業でのカヌー教室(全児童がカヌー体験) 生涯学習課が対応(職員も練習)
- 町教育委員会主催「少年少女カヌー教室 4回／毎年夏」今年で約25年継続
- 町カヌー協会の発足(カヌー振興のため活動 会員約60名)
- JOCジュニアオリンピック杯全国中学生カヌー大会の開催(約3年に1回の開催で10回程度)
- H29南東北インターハイカヌー競技等、全国規模大会の開催
- 成人後の回帰、循環(役場入庁、町カヌー協会入会、大会スタッフ等)

べにばな国体以降の取組み その2

- 2004年アテネ五輪に白田美由希さんが出場（町初のオリンピック誕生）▼右下写真
 - ジュニア選手の強化育成の継続
- ⇒ 2012年時点で国体メダル250個超、
145人を超えるメダリストが誕生



近年の取組み その1

更なるジュニア選手の強化育成 ハード整備編

- H27に1,000Mコース化の可能性調査
⇒ 更なるジュニア選手の強化育成と1,000M種目を有する大会等(シニアカテゴリ)誘致のため
- H30にモルドバ共和国とホストタウン協定締結 ※1,000M化へ
- R1に1,000M化に着工 R2竣工 東京2020五輪延期(事前キャンプも延期)
- R3に自動発艇装置製作設置



近年の取組み その2

更なるジュニア選手の強化育成 ソフト編

- H30にモルドバ共和国とホストタウン協定締結
- R3にモルドバ共和国、チリ、日本チームの事前合宿
⇒ ジュニア選手との交流事業「パドルタッチ」
- モルドバカップの開催 オリジナルメダル、賞状



近年の取組み その3

交流人口の拡大と地域経済活性化

- 【シニア】R3に第57回全日本学生カヌースプリント選手権大会の開催（町出身選手の活躍）
 - ※ 開催予定だった「関東学生カヌースプリント選手権」「全日本選手権」は中止（コロナによる）
 - ※ 上記大会の中止に伴って、長期合宿もキャンセル
- 【ジュニア】R3に全国中学生カヌー大会の開催
 - ※ 開催予定だった「山形新聞杯東北中学生カヌー大会」も中止
- 新たな取り組みとして、地元観光協会の配宿業務（手数料収入）
- 町内への経済効果は約3,000万円。



今後の取組み予定

カヌーによるまちづくりをもっと推進していくために

- 艇庫の整備
- 合宿など長期滞在のための宿泊環境整備
- 大会の誘致
- 合宿の誘致
- 子どもたちへのカヌー振興(継続事業)
- ジュニア選手たちの強化育成(継続事業)
- カヌーによる「ひとづくり」「まちづくり」の更なる推進

